



自分たちが拾った土器のかげらを丁寧に洗浄する児童ら

中世の時代にタイムスリップ

■宮下遺跡発掘現場体験教室／勝間田小学校

勝間田小学校の6年生26人は7月12日、宮下遺跡発掘現場（坂部）で、体験教室に参加しました。宮下遺跡は平安時代末期から鎌倉時代初期の時代の遺跡で、県内最大級の大型建物群や日本最古とみられる六角塔婆などが出土しています。市学芸員からの説明の後、児童らは土器のかげらを自分たちで拾い、字や模様注意到しながら、ブラシを使って丁寧に洗いました。児童らは土器の感触を手と心に刻みながら、中世の時代に思いを巡らせていました。

いざというときにも助け合い

■牧之原市・松川町災害時応援協定調印式

市は7月11日、長野県松川町役場で友好姉妹都市である松川町と災害時応援協定を締結しました。東日本大震災では、応援協定がある自治体同士の支援が有効に行われたことを受け、友好姉妹都市の同町と協定を締結することになりました。協定には大規模災害時の食料品や生活必需品などの提供や職員の派遣、被災者を一時収容する施設の提供などが盛り込まれています。本市がこの協定を結ぶのは今回が初めてであり、今後は他の友好都市などとも締結を行う予定です。



がちりと握手をかわす田久副市長（右）と深津松川町長

宝くじ助成金で公民館の備品を整備

■財団法人自治総合センターコミュニティ助成事業

静波10丁目町内会では公民館の新設に伴い、7月、公民館で使用する備品を整備しました。整備した備品は、プラズマテレビ、テレビ台、DVDプレーヤー、冷蔵庫、会議テーブル、会議用イスなど7品目です。これは財団法人自治総合センターが行う、宝くじの社会貢献広報事業を活用したものです。この事業により、子どもからお年寄りまでより便利で快適に公民館を使用することができ、地域のコミュニティ活動の活性化が期待されます。



整備したテレビ、会議テーブル、会議用イスなどの備品



積極的に募金活動に参加する「アントキの猪木」さん

笑いで日本を元気にします

■東日本大震災復興支援チャリティーライブ

東日本大震災復興支援波津実行委員会（鈴木正樹委員長）主催の東日本大震災復興支援チャリティーライブが7月23日、い〜らで開かれました。被災地の復興支援のために企画されたもので、「アントキの猪木」さんら多くのお笑い芸人やアーティストが出演。被災地の皆さんにも見てもらえるようにライブの様子はDVDに収められました。ライブの前には、市内スーパーマーケットで出演者と実行委員会による募金活動が行われ、合計61万2,375円の義援金が被災地へ寄付されます。

広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎ (23) 0052 ✉ seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



「がんばれ静岡牧之原茶」などの短冊を飾り付ける茶娘ら

安全・安心なお茶をお届けます

■二番茶放射性物質自主検査報告会

市茶業振興協議会は7月7日、榛原庁舎で二番茶の放射性物質自主検査報告会を開き、茶生産者や茶商ら約50人が参加しました。荒茶の自主検査を実施した市内73茶工場全てで国が定める放射性セシウムの暫定基準値を下回り、放射性ヨウ素は検出されませんでした。これにより静岡牧之原茶の安全性が確認されました。その後、参加者や茶娘らが七夕にちなみ、「緑の茶畑を守ろう」などの願い事や誓いが書かれた短冊を竹ざさに飾り付けました。生産者は「逆風に負けず、消費者に安心して飲んでもらえるお茶を提供したい」と茶業発展の期待と願いを込めました。

私たちの願いがかないますように

■清風園訪問／萩間保育園

萩間保育園の園児24人は7月5日、特別養護老人ホーム清風園（西萩間）で入居者約50人と七夕飾りを作って楽しみました。園児らはグループに分かれて、歌を披露した後、お年寄りと一緒に「ケーキ屋になりたい」「プラモデルが欲しい」などの願い事を短冊に書き、竹ざさに飾り付けました。完成した七夕飾りは施設内に飾られました。お年寄りは時々、園児らに声を掛けたりして笑顔を見せ、交流を楽しんでいました。



入居者と一緒に短冊に願いを書き込む園児



寄贈した椅子に座る山田町立織笠保育園の園児らと組合員ら

木のぬくもりを感じ健やかに育て

■榛南建築工業組合が被災地へ手作り椅子を寄贈

牧之原市、御前崎市、吉田町在住の大工らで組織する榛南建築工業組合（野中義明組合長）などは、7月3日から7月5日までの三日間、東日本大震災で被災した岩手県山田町の保育園を訪れ、手作りの椅子200脚などを園児たちに届けました。野中組合長は「木のぬくもりを感じて健やかに育てほしい」と話し、園児らは「木のいい匂いがする」とうれしそうにお礼の言葉を伝えました。配送には市内の「株式会社笠原産業」（東萩間、笠原活彦社長）が無償で協力してくれました。